

News Letter

2024
Winter issue

令和6年12月13日発行

Japan Society for the Sociology of Sport and Physical Education



(日本体育・スポーツ・健康学会第74回大会：笹生会員提供)

日本体育社会学会

事務局：〒630-8506

奈良県奈良市北魚屋西町

奈良女子大学生活環境学部N120 研究室

石坂 友司 研究室内

E-mail: jimukyoku@jssspe.org

< 目 次 >

2024年度日本体育・スポーツ・健康学会

傍聴記・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1

研究委員会より・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3

「年報 体育社会学」編集委員会より・・・・・・4

事務局より・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5

あとがき・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10

重要なお知らせ

2025年1月に新会員制度の導入、2025-26年度役員選挙が実施されます（詳細は、事務局情報：P.5をご覧ください）。

キーノートレクチャー

「身体活動と社会経済的要因—現状と格差対策へのヒント—」傍聴記

中山健二郎（沖縄大学）

2024年8月29日から31日にかけて、福岡大学にて、日本体育・スポーツ・健康学会第74回大会が開催された。本学会は、台風10号の接近による影響に伴い、29日、30日はオンライン開催、31日は現地開催に加えてオンラインでも視聴可能なハイブリット形式で行われた。29日の13:00~14:00に体育社会学専門領域のキーノートレクチャー「身体活動と社会経済的要因—現状と格差対策へのヒント—」がオンラインで実施され、鎌田真光先生（東京大学）が登壇された。鎌田先生は、身体教育医学研究所うなん（島根県雲南市） 研究者などを経て、現在は東京大学大学院医学系研究科で講師としてご活躍されている。「運動不足を世界からなくす」というミッションのもと、スポーツ医科学、疫学、身体教育学等の知見を活かして行政・民間のプロジェクトに多数参画されており、『第9回健康寿命をのばそう！アワード』厚生労働大臣優秀賞「第31回日本医学会総会最優秀奨励賞」を受賞されるなど、その功績は高い評価を受けている。本キーノートレクチャーでは、人々の身体活動量に生じている格差と社会経済的要因の関連についての検討を踏まえ、その状況に対して効果的な介入が行われた島根県雲南市や神奈川県藤沢市のプロジェクト、プロ野球パ・リーグの事業事例などが紹介された。その内容や論点について以下に記していく。

日本では、人々の身体活動の総合的指標となり得る平均歩数が年々減少しており、この傾向は特にコロナ禍で加速している。また、職業上の平均身体活動強度は1960年~2020年にかけて長期的に低下してきているという。社会経済的要因との関連をみると、世帯収入が高い人の方が運動習慣、歩数の平均値が高い。また、未就学児や小学生については世帯収入が高い家庭の方がスポーツクラブへの加入率が高いなどの格差がみられている。中学生では上記の格差がみられなくなることから、鎌田先生は、部活動が世帯収入によるスポーツ実施格差の是正機能を持っているのではないかと指摘された。この点は、現在進んでいる部活動の地域移行について検討を行う際にも重要な論点であろう。「働き方改革」という旗印のもと進められる部活動改革に対し、子どもの「スポーツ権」の観点から批判的検討がなされる様相も散見されるが、ともすれば理念的な応酬になりがちな当該問題について、上述のようなエビデンスに基づく議論はとても建設的であるように感じられた。

地域間の格差という点では、身体活動量と人口密度に相関がみられることから、地方における身体活動促進の重要性が指摘された。しかしながら、鎌田先生によれば、身体活動促進施策に関する介入方法とその評価、社会実装の方法について検討を行った研究は数少ないという。こうした背景のなかで、鎌田先生が関わられ、顕著な成果がみられた島根県雲南市の事例について紹介がなされた。島根県民は全国に比べて身体活動量が少ない傾向にあり、特に雲南市では過疎高齢化の進展によって、住民の加齢に伴う運動機能の低下や疾患の対策が喫緊の問題であったという（北湯口、2023）。そこで、鎌田先生が所属されていた研究機関および市の多部署などが協働し、住民の身体活動量増加のためのプロジェクトが進められた。このプロジェクトは、特定のグループなどの限定された対象ではなく「住民全体を対象に働きかけてどれくらい運動する人を増やせるか」という介入であるため、先行事例は少なく、理論フレームや介入とその評価方法について上述の多機関が共同して綿密な設計がなされていた。理論的には人々の行動に影響を与える個人・環境要因を考慮したエコロジカル・モデルに依拠し、「歩行」「体操」を軸とした身体活動について、音声放送やチラシによる情報提供、検診や行事での声掛け・指導、住民相互の声掛け促進などの多面的なアプローチが展開されていた。

特に、ソーシャル・マーケティングの方法を取り入れ、住民による討議とメッセージの策定、相互の声掛け促進などが行われたことにより、このプロジェクトが住民にとって「誰かから言われたこと」ではなく「自分たちのこと」として意味づけられ展開していくという戦略が大変有効に機能しているように感じられた。結果として、本プロジェクトは介入によって地域全体の運動実施を向上させた事例とその実証として、世界的に高い評価を受けているという。事例報告として端的にまとめられてはいたが、その背後に現場を駆け回る日々と大変な苦労があったことは想像に難くない。「理論と実践の往還」と言葉にすることは簡単であるが、鎌田先生のご報告からは、その凄みに圧倒されるような感覚を覚えた。「理論と実践の往還」は、体育社会学領域においても繰り返しその重要性が謳われてきたテーマである。ただし、それは決して一朝一夕で果たせるものではない。少し現場に入っただけで、機会を与えられて発言しただけで手前勝手に「往還」した気になっていないか、あるいは、

そもそも本当に「往還」しようとする気概を持って現実に関与しようとしているか、改めて強く自戒する機会となった。そこに必要なのは、鎌田先生が述べられていたように、『「~のために」から『~とともに』』という姿勢と覚悟であろう。

その他、神奈川県藤沢市における同様の介入事例や、プロ野球パ・リーグによるウォーキング推進事業などについても、身体活動量の格差是正や社会経済的要因を問わない運動実施の向上がみられた事例として紹介がなされた。3つの成功事例に共通する点は、人々がプロジェクトに取り組むことへのインセンティブ設計が優れていることであろう。運動促進に関する施策が成果を生み出すには「やりたくなるあり方」の戦略性が肝要の一つであると思われる。また、質疑応答においては、運動の「質」の問題をどのように考えるかなどについて議論がなされた。鎌田先生のアプローチは「まずはゼロをイチにする。動いていない人が健康の手段として動く」ことにあるという。この立場を受けて、そこで行われる運動の「質」や身体活動の経験世界を読み解くことは、体育社会学領域が引き受けられる今後の重要な課題であるようにも感じられた。

最後に、冒頭で述べた通り本学会は台風の影響に見舞われ、イレギュラーな状況での開催となった。直前での調整で学会運営全体に大変な苦労があったものと思われるが、本キーノートレクチャーはオンラインによって無事開催され、大変有意義な場となった。千葉直樹委員長をはじめとする研究委員会の先生方のご尽力と柔軟なご対応に、この場を借りて改めて御礼を申し上げたい。

文献

北湯口純（2023）地域の運動実施率を高めるポピュレーション戦略とは？：行動科学とマーケティングを活用した5年間の実証研究で明らかになった「運動普及」の鍵. 地域医療, 61（1）：41-45.

研究委員会より

研究委員会では、2025年2月にオンラインの研究セミナーを開催する予定です。研究セミナーのテーマは、中学校と高等学校の体育授業における男女共習の現状についてです。2017年に告示された中学校学習指導要領解説保健体育編と2018年に告示された高等学校学習指導要領解説保健体育編では、「原則として男女共習で学習を行う」と明記されました。こうした方針を受けて、茨城県の公立中学校では、約7割の学校で、男女共習で体育の授業を行っているという報告があります（忠鉢信一、朝日新聞、2024年1月15日）。一方で、高校の体育授業の実態については十分に調査されていない可能性があります。個人的な体験ですが、私が2024年9月にある県の二つの高等学校を訪問し、保健体育の教育実習生の授業を観察しました。その際には、ともに男女別習の授業が行われていました。現場の体育教師の中には男女共習の理念を十分に理解していない者もいます。研究セミナーでは、中学校学習指導要領解説保健体育編に示された男女共習の趣旨やこの方針を浸透させるための工夫について専門の研究者よりご報告いただく予定です。このテーマは、ジェンダー平等に関する理念と保健体育授業の実践に関わる内容であり、体育社会学の研究者の関心を得ることができると考えています。研究委員会では、研究セミナーで得る学びを発展させて、2025年6月に開催される第3回日本体育社会学会の研究委員会企画シンポジウムでも体育授業の男女共習について扱う予定です。会員の積極的なご参加を期待します。

研究委員会委員長 千葉 直樹

「年報 体育社会学」編集委員会より

「年報 体育社会学」編集委員会では、現在第6号(2025年4月刊行)の投稿論文の原稿を受け付けております。投稿された論文が2025(令和7)年1月末までに論文審査を終えて採択されれば第6号への掲載となりますが、1月末を過ぎても採択後には翌年の機関誌の刊行(第7号)を待たずにJ-stageへ早期公開し、可能な限り投稿者の研究成果を国内外の研究者に広く共有してもらえよう編集体制を整えております。投稿先を検討中という会員の皆様は、是非とも「年報 体育社会学」へのご投稿を検討ください。なお、投稿には締め切りはございません。年間を通じて投稿を受け付けておりますので、何卒よろしく願いいたします。詳細は、「投稿に関わる諸規程等一覧」をご覧ください。

https://jssspe.org/wp-content/uploads/annualreport_regulations_20230625.pdf

「年報 体育社会学」J-STAGEはこちらからご覧いただけます。

<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/arspes/-char/ja>

日本体育社会学会としての第2回学会大会、並びに日本体育・スポーツ・健康学会での体育社会学専門領域としての活動を無事終えることができました。改めましてお礼申し上げます。

1. 2025年度の学会大会について

第3回日本体育社会学会大会は2025年6月21日（土）、22日（日）に東北大学で開催されます。また、日本体育・スポーツ・健康学会大会は2025年8月27日（水）～29日（金）に日本体育大学で開催されます。詳細は会報、ホームページ等でお伝えいたします。

2. 役員選挙について

2025-26年度役員選挙を実施いたします。選挙管理委員は伊藤克広会員（委員長）、宮本幸子会員（副委員長）とし、事務局が選挙事務を行います。役員選挙については、2024年12月1日付けの会員名簿が対象となり、選挙資格を得るには期日まで当該年度までの会費を納入していることが必要となります。新会員制度は適用外となります。選挙は前回と同じく、(株) エム・イー・シーのi-Voteを利用してオンライン投票となります。投票に必要なIDとパスワードはメールでお届けします。

会員への連絡はホームページとメールで行います。日本体育・スポーツ・健康学会の名簿に登録されたメールアドレスにてご案内していますが、メールが届かない方が数名おられますので更新をお願いいたします。登録変更は日本体育・スポーツ・健康学会の下記ページにて手続きを行ってください。また、メールが届いていない方がおられましたら、事務局までお知らせください。

<https://member.taiiku-gakkai.or.jp/member/>

以下の方のメールアドレスが不明、または不達となっています（敬称略）。連絡が付く方がおられましたら事務局までお知らせください。なお、メールアドレス不明の方には郵送にて対応させていただきます。

名誉会員

團琢磨、西垣完彦、柳敏晴、山岸明郎

正会員

市毛哲夫、郡司俊雄、田中俊夫、薬袋典子

今後のスケジュール

2024年

12月1日 会費納入の締め切り。名簿（選挙人／被選挙人）の仮確定。

12月16日～22日 名簿確認作業（会員）

2025年

1月6日～ ID／パスワードのメール送付、住所不明者への郵送

1月13日～2月13日17時まで 投票受付

2月14日～21日 開票作業、当選者の確定、受諾確認（3月上旬に結果確定）

3. 新会員制度の導入と会員募集について

2024年度第2回総会で、2025年1月1日から、新会員制度を導入することが決定しました。日本体育・スポーツ・健康学会に所属されていない方でも、理事会の承認を得て会員になることができますようになります。会員種別は以下（会則）の通りとなります。会費は、日本体育・スポーツ・健康学会所属の正会員は年額3,000円、それ以外の正会員は5,000円、学生会員は3,000円となります。名誉会員からは徴収いたしません。

現在入会受付方法を事務局で検討していますが、2025年1月以降にホームページの入会フォームから申し込みをいただくことを予定しています。お近くの研究者の方、指導学生などに周知いただければ幸いです。

参考：会則

(第4章 会員)

第4条 会員は、前条の目的に賛同する者で、以下の種別からなる。

- (1) 正会員：一般社団法人日本体育・スポーツ・健康学会（以下、日本体育・スポーツ・健康学会）体育社会学専門領域の会費を納入した者、あるいは、日本体育・スポーツ・健康学会会員以外で、理事会の承認を得た者とする。
- (2) 学生会員：日本体育・スポーツ・健康学会会員以外で、理事会の承認を得た学生は学生会員になることができる。なお、大学、または関連する研究・教育機関の常勤の職にある者はこの種別の会員になることはできない。
- (3) 名誉会員：総会の承認を得て、本学会に貢献のあった者を名誉会員にすることができる。

(第9章 経費)

第16条 本会の経費は次の収入によって支出する。

- (1) 会員の会費（日本体育・スポーツ・健康学会所属の正会員は年額3,000円、それ以外の正会員は5,000円、学生会員は3,000円とする。名誉会員からは徴収しない）。
- (2) 日本体育・スポーツ・健康学会からの助成金
- (3) 個人または他の機関からの寄付金

4. 『年報 体育社会学』の販売について

今年度刊行の第5号から、杏林書院さんで販売を開始しています。大学図書館などの所蔵として、定期購入をご検討・ご依頼いただければ幸いです。第6号は2025年4月の刊行を予定しています。

<https://www.kyorin-shoin.co.jp/book/b10083921.html>

5. 事務局の連絡先

事務局のメールアドレスは以下の通りです。 jimukyoku@jssspe.org

○理事会議事録

2024年度 日本体育社会学会 第4回理事会 議事録

期 日：2024年8月31日（土）9時～9時40分

場 所：福岡大学 AB01 教室／Zoom オンライン

出席者（対面）：松尾哲矢（会長）、高峰修（理事長）

浅沼道成、秋吉遼子、稲葉慎太郎、大沼義彦、甲斐健人、笹生心太、千葉直樹、

中澤篤史、藤井雅人、依田充代（以上理事、敬称略、五十音順）

石坂友司（事務局長）、水上博司（事務局次長）（敬称略）

出席者（オンライン）：伊藤克広、岡安功、神野賢治、北村尚浩、清水諭、白石翔、

高尾将幸、高橋豪仁、長ヶ原誠、松田恵示、前田博子（以上理事、敬称略、五十音順）

有山篤利、宮本幸子（以上監事、敬称略、五十音順）

石澤伸弘（事務局次長）、工藤康宏（会計担当）（敬称略）

欠席者：彦次佳（理事、敬称略）

司会：高峰理事長

議事録：石坂事務局長

議事に先立ち、松尾会長より挨拶がなされた。

<報告事項>

1. 委員会報告

藤井編集委員長より年報第6号の編集状況について、伊藤広報委員長よりニューズレター夏号の刊行と冬号の刊行準備についての報告がなされた。

2. 国際交流に向けたワーキンググループ報告

国際交流に向けたワーキンググループが組織され、第1回目の話し合いがもたれたことが石澤事務局次長より報告された。ワーキングメンバーは石澤事務局次長、朴永晃会員（大阪経済法科大学）、申恩真会員（北星学園大学）、張曉博会員（早稲田大学大学院）。日本スポーツ社会学会など関連する学会の活動との差異や連携のあり方について引き続き意見交換をし、次年度に向けた活動の指針を導く意向であることが報告された。

3. 第3回日本体育社会学会大会の開催日について

開催校となる東北大学の甲斐理事から、2025年6月21日（土）、22日（日）に東北大学で開催するスケジュールが報告された。

4. テキスト出版プロジェクトについて

松田テキスト出版編集委員会委員長より、テキスト出版の進捗状況について、7月末に原稿を締め切っており、年明けの刊行スケジュールに向けて進めたいとの報告がなされた。

5. その他

・専門領域連絡会議の報告について

石澤事務局次長より、8月30日に開催された日本体育・スポーツ・健康学会専門領域連絡会議の報告がなされた。応用（領域横断）研究部会の来年度以降の課題設定について意見が求められ、本専門領域より、①重複するテーマが出て来ているため、厳選して部会の数を減らしても良い、②テーマ選定は各専門領域から挙げたもので、希望が多いものを実施する、③学会が向き合うテーマを設定して、何らかの提言やメッセージを導き出すような取り組みがあっても良い、といった点を提案したことが報告された。また、次年度について、今年度と同様の枠組みになる見込みであることが来田日本体育・スポーツ・健康学会長より示されたことが報告された。

<審議事項>

1. 新会員制度創設のための規程改定（案）について

新会員制度の創設（日本体育・スポーツ・健康学会に所属しない会員を含む正会員と学生会員、名誉会員の創設）にあたって、関連する規程と内規（「会則」、「役員選出内規」、「選挙管理委員選出規程」、「日本体育社会学会の会長および理事選挙について」、「日本体育社会学会経費支出基準内規」）の改訂案が事務局から提案され審議が行われた。改訂案では第3回理事会で指摘のあった箇所について修正されるとともに、役員選挙について、これまで事務局が管理することになっていたものを、選挙管理委員の管理とし、事務局が補佐するかたちで進めること（「選挙管理委員選出規程」の改訂）が理事長から提案され、承認された。また、日本体育・スポーツ・健康学会に所属しない正会員が加わることに関して、日本体育・スポーツ・健康学会と日本体育社会学会の各大会開催時に開催される理事会などへの参加について、旅費を支給しない方針を「日本体育社会学会経費支出基準内規」に明記することが理事長から提案され、承認された（「日本体育社会学会経費支出基準内規」の改訂）。

「選挙管理委員選出規程」案の誤記を修正したほかは、修正意見がなく、すべての規程・内規の改訂案が承認された。なお、「会則」と「役員選出内規」は総会に上程されることが確認された。

また、新会員制度の運用開始日については、2025年1月1日からとすることが理事長から提案され、承認された。

2. 2025-26年度会長・理事選挙について

「選挙管理委員選出規程」の改訂により、選挙管理委員として、伊藤克広会員（委員長）、宮本幸子会員（副委員長）を選任することが理事長より提案され、承認された。また、選挙事務を事務局が担当することが承認された。続いて、会員種別ごとの選挙権・被選挙権の有無について事務局長から説明された。また、2025-26年度選挙について、選挙人名簿は2024年12月1日までに会費を納入した正会員とすること、新会員制度の運用開始が

2025年1月1日からとなったことを受け、今回の選挙では日本体育・スポーツ・健康学会に所属する正会員、及び名誉会員のみの選挙となることが事務局長から提案され、承認された。

工藤会計担当より、選挙管理委員と事務局の役割分担は明確にした方が良いとの意見が出され、事務局長より、選挙事務は事務局が進め、選挙管理委員は全体管理を行うことになるとの返答がなされた。

3. 学会賞選考委員会委員の選任について

8月21日に開催された学会賞選考委員候補者推薦委員会によって、学会賞選考委員会委員の推薦が行われたことが理事長より報告され、7名の委員が承認された。なお、選考委員については議事録で非公開とすることが確認された。また、事務局長が事務担当として選考委員会を補佐することが提案され、承認された。

4. その他

特になし

以上

○総会議事録

2024年度 日本体育社会学会 第2回総会 議事録

日時：2024年8月31日（土）13:30～14:05

場所：福岡大学 AB01 教室 / Zoom オンライン（ハイブリッド開催）

出席者数：対面 25名、オンライン 27名

司会：高峰理事長

議事録：石坂事務局長

議事に先立ち、松尾会長より挨拶がなされた。

<議題>

1. 議長、議事録署名人の選出

会員から立候補がなかったため、事務局提案により、大沼義彦会員が議長に選出された。また、議事録署名人は会員から立候補がなかったため、事務局提案により、下窪拓也会員、中山健二郎会員が選出された。

2. 「会則」の改訂について

理事長より新会員制度の創設に伴い「会則」の改訂が必要になったことの説明がなされた。異議などなく、承認可決された。

3. 「役員選出内規」の改訂について

理事長より「役員選出内規の改訂」について説明がなされた。異議などなく、承認可決された。

4. 2025-26年度会長・理事選挙について

理事長より、2025-26年度会長・理事選挙について、理事会で「選挙管理委員選出規程」が改訂されたこと、それにもない選挙管理委員長として伊藤克広会員（委員長）、宮本幸子会員（副委員長）が選任されたこと、事務局が選挙事務を担うことについて報告がなされた。また、新会員制度の創設に伴う正会員、学生会員、名誉会員の選挙権、被選挙権の範囲について説明がなされた。このことについて、名誉会員の選出方法と名誉会員が被選挙権を有しないことに対する説明を求める意見があり、理事長より、名誉会員はこれまで通り日本体育・スポーツ・健康学会の推薦による選出方法になること、名誉会員が被選挙権を有しないことはこれまでも同様の運用をしてきたが、内規等に記載がなく、今回改めて役員選出内規に書き込んだことが説明された。

また、新会員制度は2025年1月1日から導入されること、選挙人名簿は2024年12月1日付の正会員の名簿から作成されて電子システムを用いて投票が行われるため、今回の選挙において新会員は選挙に関係しないとする理事会提案が理事長から説明された。異議などなく、承認可決された。

5. その他
特になし。

〈報告〉

1. 2024年度活動報告

6月開催の第1回総会以後の委員会活動について、理事長からまとめて報告がなされた。

2. 諸規程の改訂について

理事会で改訂された「選挙管理委員選出規程」、「日本体育社会学会の会長および理事選挙について」、「日本体育社会学会経費支出基準内規」について事務局長より報告がなされた（説明は省略された）。

3. 学会賞について

学会賞選考委員候補者推薦委員会によって7名の学会賞選考委員会委員の推薦が行われ、理事会で承認されたこと、委員については非公開となることが理事長より報告された。

4. 第3回日本体育社会学会大会の開催日について

2025年6月21日（土）、22日（日）に東北大学で開催するスケジュールが理事長から報告された。

5. テキスト出版プロジェクトについて

テキスト出版の進捗状況と年明けの刊行に向けたスケジュールについて理事長から報告がなされた。

6. その他

①専門領域連絡会議の報告について

石澤事務局次長より、8月30日に開催された日本体育・スポーツ・健康学会専門領域連絡会議の報告がなされた。応用（領域横断）研究部会の来年度以降の課題設定について専門領域からいくつか提案を行ったこと、次年度について、今年度と同様の枠組みになる見込みであることが報告された。

②国際交流に向けたワーキンググループ報告

国際交流に向けたワーキンググループが組織され、第1回目の話し合いがもたれたことが石澤事務局次長より報告された。

③会員より、学生研究奨励賞は日本体育社会学会と日本体育・スポーツ・健康学会（体育社会学専門領域）の一般発表のどちらが対象になるのかが規程等で分かりづらいとの質問があり、理事長から確認して回答したいとの返答がなされた。

議長より、閉会の挨拶がなされた。

以上

議事録署名人

下窪拓也

議事録署名人

中山健二郎

あとがき

News Letter 2024 Winter issue をお届けします。

去る8月末、日本体育・スポーツ・健康学会第74回大会（福岡大学）が開催されました。台風10号の影響を受け、1日目・2日目が急遽オンライン開催となる異例の大会となりました。まずはこの場を借りて、急遽オンライン環境を整えていただいた福岡大学の関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。

私は前日に博多に到着しており、市内のホテルから専門領域のキーノートレクチャーなどにオンライン参加しました。webexの動作はスムーズで、また複数の会場を同時に覗くこともできたため、とても快適に参加することができました。しかし、一向に止まない雨風、そしてランチに出かけようにもお店がやっていない状況で、「自分は何をしに来たのだろうか…」と何度も自問することとなりました。しかし、私と同じように現地入りしていた若手の会員の皆さんにお声がけをいただき、途中からレンタルルームを借りて学会大会の「パブリック・ビューイング」を行うことができました。学会大会の魅力は、何といても他の会員の皆さんと自由に意見交換を行うことであると実感でき、忘れることのできない思い出となりました。

さて、2024年も残すところあとわずかとなりましたが、皆さんにとって今年はどうのような1年だったでしょうか。スポーツに関する出来事としては、まずはオリンピック・パラリンピック大会が思い出されます。オリンピックでは、スケートボードの堀米雄斗選手の大逆転金メダル、陸上やり投げの北口榛花選手の笑顔、そして柔道の阿部詩選手の涙など印象的なシーンが多く生まれました。また、メジャーリーグの大谷翔平選手が史上初の50-50を達成し、世界一に輝いた姿も印象的でした。このようにスポーツに関する華々しいニュースに事欠かない1年でしたが、他方でSNS上での選手たちに対する誹謗中傷問題や、大谷選手ばかり大々的に取り上げる報道のあり方など、様々な問題が噴出した1年でもあったように思います。我々体育・スポーツ社会学の研究者から、こうした現代的な課題に対する問題提起をしていきたいものです。

来年には、6月に日本体育社会学会第3回大会（東北大学）、そして8月には日本体育・スポーツ・健康学会第75回大会（日本体育大学）が開催されます。会員の皆様とお目にかかり、大いに議論できることを楽しみにしております。どうぞよいお年をお迎えください。

笹生心太（東京女子体育大学）